

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第5号 野菜

発行日 平成23年 7月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri//>」

- ◆ハウス果菜類 高温対策、草勢維持、病虫害防除を徹底しましょう。
- ◆露地きゅうり 整枝・摘葉と重要病害に対する初期防除を徹底しましょう。
- ◆ほうれんそう 天候の変動に対応した遮光管理と適切なかん水管理をしましょう。
- ◆露地葉茎菜類 草勢回復と適期作業・病虫害防除を徹底しましょう。

1 生育概況

- (1) 雨よけトマトは現在2～3段花房中心の収穫となっていますが、一部では高温経過の影響で落花が散見されています。病虫害では灰色かび病が発生しているほか、アザミウマ類による果実への加害もみられます。
- (2) ハウスピーマンの生育は概ね順調ですが、高温経過による尻腐果の発生や収穫量の増加により草勢の低下しているほ場も散見されます。露地ピーマンの生育は概ね順調です。病虫害では主にアブラムシ、アザミウマ類、タバコガ等の虫害が発生しています。
- (3) 半促成きゅうりの収穫は終盤となり、今後抑制きゅうりが作付されます。露地きゅうりの生育は概ね順調で収穫量も増えていきます。病虫害では、褐斑病、炭そ病等の発生が見られ始めています。
- (4) 雨よけほうれんそうは、高温による生育停滞が見られていますが、一部では天候の変化に対応できず水分過多による生育不良も散見されます。アブラムシ類、ウリハムシモドキやケナガコナダニの発生が依然散見される他、シロオビノメイガの発生も見られてきています。また、気温の上昇に伴い、萎ちょう病の発生も見られ始めています。
- (5) キャベツは、圃場の乾燥による生育不良、結球肥大の遅れが見られます。病虫害は、コナガの発生が見られます。
レタスは、高温乾燥による定植後苗の活着不良や下葉の枯れが散見されるとともに、腐敗性病害の発生も見られます。
ねぎの生育は概ね順調ですが、アザミウマ類やべと病の発生が見られています。

2 技術対策

(1) ハウス果菜類の管理

トマト、ピーマンなどのハウス果菜類では最盛期を迎え、生育が旺盛となり、風通しが不良になってきますので、整枝や摘葉を遅れないように実施するとともに、病虫害防除では、くん煙剤の利用など効率的な防除を行います。また、今後オオタバコガやタバコガの発生が増加することが予想されていますので、8月前半までに必ず薬剤散布を行うようにしましょう。

また、梅雨明け後の高温対策として遮光資材の利用や換気を積極的に行い、生育適温を超えない範囲でハウス内気温を維持しましょう。通路散水も、ハウス内気温や地温を下げるのに有効で

す。日中にハウス内気温が十分に下がらないと、夜間の呼吸消耗により草勢低下がさらに助長されるので、暑さが続く場合は高温対策をしっかりと行って下さい。

なお、収穫量、気象条件などを考慮した追肥方法を選択し草勢の維持、回復を図り収穫最盛期を乗り切ります（図1、図2参照）。

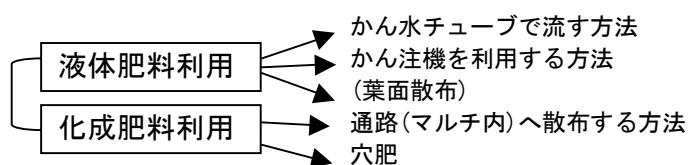


図1 追肥方法の種類

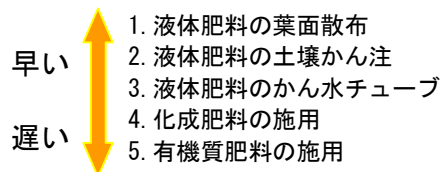


図2 肥料の種類による肥効の早晩

ア 雨よけトマト

桃太郎系品種は、5～6段果房の着果期以降に草勢が低下しやすく、草勢が低下すると回復が難しくなるので、こまめな追肥とかん水で草勢の維持を図りましょう。この時期は、すじ腐れ果、空洞果などの発生が多くなりますが、窒素過多や高温、多湿にならないようにするとともに、肥培管理が重要となります。また、収穫後の花房下の葉は摘葉し通風を良好にします。

なお、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種（桃太郎なつみ、桃太郎ギフト、桃太郎サニーなど）において、葉かび病に類似した症状が確認された場合は、最寄りの指導機関に診断を依頼することをお勧めします。

また、萎ちょう性病害も増加傾向です。萎れが発生した場合は最寄りの指導機関に診断を依頼し、原因を特定した上で次年度対策を講じて下さい。

イ ハウスピーマン

収穫の終わった枝や主枝の内側が混み合い光不足になる場合は、不要な枝を摘み内側に光が十分当たるようにします（図3）。

また、果肉の薄い品種では特に急激な高温になると尻腐果が発生しやすくなるので、通路やマルチ上にワラを敷いたりかん水を積極的にを行うなど、地温低下を図るとともに土壌中の水分不足を防ぎます。

尻腐れ果はカルシウム不足が原因ですが、窒素肥料成分が濃くなると相対的にカルシウムの吸収が阻害されますので、暑い時期の追肥は薄い濃度で行うこと、予防的対応としてカルシウム剤の葉面散布等も効果的です。

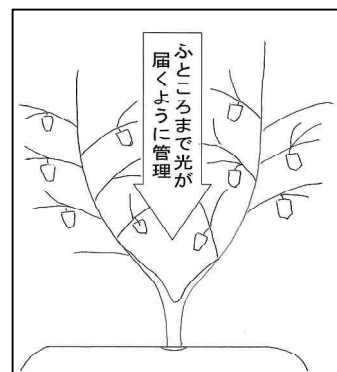


図3 最盛期における理想的な草姿

(2) 露地きゅうり

収穫量の増加に伴い、草勢維持と病害虫の蔓延防止が重要な管理となります。摘葉を基本に整枝は控え目とし、曲がり果や尻太り果などを摘果しつつ、図1を参考にしながら追肥を実施して草勢の維持・回復を図ります。

盛夏期を迎え、高温乾燥が続くと草勢低下につながりますので、かん水装置を備えている圃場では少量多かん水を基本に、土壌水分の変動を少なくするかん水管理に心がけます。かん水装置がない圃場では敷きわら等で土壌水分の保持を図ります。

摘葉は、主枝葉を中心に病葉、老化葉のほか新しい側枝を覆っている葉を中心に行い、側枝の発生を促します。整枝は、それぞれの仕立て法に応じて行いますが、草勢低下時は半放任または放任管理とします。

薬剤防除は、褐斑病、炭そ病、べと病を重点とし、これら病害に効果のある薬剤を選択して予防散布に努めます。なお、褐斑病や炭そ病の発病が見られる場合は、病葉を摘葉した後で効果の高い薬剤を選択して散布します。

また、収穫最盛期を迎え曇雨天後に急激な晴天になると「しおれ」症状が発生することが予想されます。病害（ホモプシス根腐病(写真1、写真2)、つる枯れ病等)による場合と生理的な原因による場合がありますので、「しおれ」症状が発生した場合は最寄りの指導機関に連絡し根の状態等を確認の上、次年度以降の対策を検討してください。



写真1 ホモプシス根腐病によるしおれ



写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(3) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

曇雨天後の強い日差しにより葉が萎れたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を利用して急激な日射、温度の変化を避けるようにしましょう。

また、強い日差しにより高温状態が続くと、土壌が乾燥してほうれんそうの生育が停滞します。播種前後のかん水はムラなく丁寧に行うとともに、圃場の乾燥状態に応じて生育中のかん水も行いましょう。

生育中のかん水を行う場合は、本葉4枚時以降とし、涼しい時間帯を選んでかん水します。

ただし、収穫10日前以降のかん水は軟弱徒長、過湿による病害発生やトロケ等の品質の低下を招くことがありますので注意しましょう。

例年、萎ちょう病の発生が多く収量が大幅に低下する場合には、土壌消毒により土壌中の病原菌密度を低減し、生産の安定化を図りましょう。消毒の方法としては、クロールピクリン等の土壌消毒剤による方法と、太陽熱消毒等の農薬によらない方法があります。また、土壌病害は土壌消毒に頼るだけでなく、適正な施肥や良質の有機物の施用、残さの処理、萎ちょう病に強い品種の導入等総合的な対策を実施しましょう。



写真3 本葉4枚の状態
かん水を行うならこの時期から

イ キャベツ・レタス

気温の上昇に伴い、軟腐病などの腐敗性病害の発生に注意が必要となります。葉の裏や株元まで十分薬液が届くように防除しましょう。

害虫は今後も継続して発生しますので、定植時から防除を行いましょう。特に、昨年被害が多かったオオタバコガは、幼虫が結球内部に食入するとその後の防除が困難となるため、発生初期ならびに結球期前の防除を徹底しましょう。また、8月中旬以降、再びヨトウガが発生する時期となりますので、計画的な防除を心がけてください。

圃場に滞水した場合は、圃場作業が可能になったら畦間の中耕を行って土壌中に空気を送り、根の活性化に努めます。必要に応じて液肥を薄い倍率でかん注または葉面散布し、草勢回復を促します。

これから収穫する作型では、天候の変動により、裂球や生理障害の発生が多くなりますので、適期収穫に努め、収穫率の低下を防ぎましょう。収穫終了後の圃場はできるだけ速やかに整理し、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ウ ねぎ

生育は概ね順調ですが、県内全域でべと病の発生が見られているほか、県南地域では軟腐病の発生も見られ始めました。定期的に防除を実施しましょう。

土寄せは生育状況や天候を見ながら行い、無理な土寄せは行わないようにしましょう。

なお、作型や品種によっては、最終土寄せを行う時期となります。8月収穫の場合、最終土寄せは収穫予定の15日前を目安とします。

最終土寄せ時に丁寧に土入れを行わないと、軟白部と葉の色の境が不鮮明な「ボケ」となり、品質が低下しますので、計画的な作業、適期収穫を心がけましょう。また、収穫が早い作型では収穫前日数に注意して農薬を使用します。



写真4 ベと病に感染したねぎ

エ アスパラガス

茎枯病や斑点病等の病害発生が懸念されますので、定期的に薬剤防除するとともに、立茎栽培では、茎葉が繁茂しすぎないように、萌芽してくる若茎は弱小茎や曲がった茎も含めて刈り取ります。

促成アスパラガスの伏せ込み用根株への追肥は8月上旬までには終了させましょう。生育後半まで肥料が効いている状態では、円滑な養分転流が妨げられる恐れがあります。また、普通栽培・立茎栽培と同様に、斑点病の発生には十分注意して、必要に応じて防除しましょう。

次号は8月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

■日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。

■帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。

■屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう